

付録 果菜園荒地年報二〇一五

この果菜園年報を記そうとすると、いくぶんか地球気象の局所での報告になっていることに気づく。夏にかかるところ、去年に続いて今年も東太平洋赤道沿いにエルニーニョ現象が見られ、日本でいくぶん気温が低く雨の多い年になるだろうという予報が出た。実際にほぼそのとおりになっていて、その気候が果樹と野菜の生育を決定した。

今年も春先までの一通りの備えは十分した。ただ、去年の長雨によるひどい日照不足のせいだろう、レモンの黄色に変色した葉がみな落ちた。夏を除くと隣家の陰になる四本の柑橘類も同じような状態になった。なにかおかしいが園丁には原因が分からない。しかし、葉よりも先に花を開く梅・桜桃・李・桃・梨・林檎はみな元氣よく咲いた。秋に植えたアーモンドも咲いて、少し濃いピンクの花を初めて目にすることができた。バラ科の果樹はみな、薔薇に劣らず美しい花を咲かせて、育てる者を喜ばせる。葉を落とした柑橘類も新芽を出し緑の葉をつけ始めた。無花果もたくさんの花托をつけ、二十匹以上の猫を飼う隣人がたたくさんなりそうだと感心する。こちらは地味だが、ブドウや柿も花をつけた。その

うち柑橘類もすっかり花を咲かせて、五月の陽光のありがたさを教えてくれた。

たくましい野イチゴは、去年ほどではないが充分実をつけたし、初冬に親株から出たランナーを十数移植して黒マルチで保護したイチゴも、次々に実をつけた。どちらも根莖やランナーを広げる軽やかで強い植物だ。もつとも、栽培用のイチゴはダンゴムシやナメクジと分けあって食べるのである。

ところがそうするうちに、せっかく花を咲かせたのに、どの果樹も実つきに苦労していることを示し始めた。いったん結実したのも落ちだした。結局、期待していたサクランボは七、八粒しか孫たちに食べさせられなかった。ウメが十数個、二本の木のリンゴが七個、モモは木が小さいからでもあるが二個、受粉を手伝ったスモモは七個。新来のアーモンドも数個あった実がいつのまにかしばなえた。ナシは花が咲いたら急いで赤星病対策の葉を散布したせいで古い木の葉が黒く変色するし、毎年充分葉が残らない若い方の木は結実したわずかの実をみな落とした。古い木の方はあとで葉を茂らせ、やっと一個だけ生き残った。体調の悪い柑橘類も苦戦して、ミカンが二つの木で四個、ハッサクが四個、ポンカンは〇個、レモンはあえなく全滅。

どうも、去年の日照不足のせいだけでなく、春から初夏にかけて気温が心もち低くて

木々に影響したらしい。中庭の矮性の枝垂れ桃の実も姿を消した。十一匹の金魚の身過ぎする小さな池に置いた二つの鉢の睡蓮も一輪。それも、新たに購入した元気のよいはずの株が花径も出さず。海側の背戸に置いた昔の石臼で暮らす姫睡蓮はみどりの髪に花をかざすことができなかつた。今年ほどの鉢も泥に手を入れ肥料も施したのにそうだった。くちなしも大暑になってやっと一輪だけ。さるすべりはその年に伸びる枝に花を咲かせるのだが、花芽をつけたのはそのうちの数本。こうして、今年も天候不順な夏になった。

そうそう、大風は今年も怠けずに春遅く訪ねて来た。おかげで、両親の植えた李の実を初めて拝むことができるかと心待ちにしていたのに、百円玉よりも大きくなつていた七個の実がぜんぶ果てた。果物たちとわたしの傷心を癒すために、幼いスモモ・リングゴ・ナシ・アーモンド・カキたちに、書斎のモンテニュー像の写真を貼った下の低い書棚の上、かの人々の塔の絵葉書の前で円陣を組ませた。ただしカキの実は摘果したものだ。柿は強くてほとんどが結実し落下したのは少ない。

梅雨の前の日照りはやはり「荒地」にきつく、同級生がほめていたイチジクの夏の実ほとんどしなびてしまった。バラ科なのに先ほど名を挙げなかつたピワは、初冬にあまり花を見ないと思っていたが、口に入ったのは結局ない。梅雨の雨量は多めだったと思う。

乾燥に弱いブルーベリーとブラックベリーは順調に育ち、味わうことができた。

梨の葉への薬剤散布はこまめにやったつもりなのに、わがコズモスになお星が生まれることを喜べとの啓示だろうか、星の誕生をおさえることができなかった。使っていた薬剤の効力が弱いのもかもしれない。最後の回には葉を変えてみた。星を生んだ葉をていねいに取り除いたら、雨が多かつたせいで秋口までにいくらか新しい葉もつけた。たった一個残った父母の形見の実を大切に見守ることに。もちろん、数少ないリングゴと一個のナシは袋かけをした。ブドウも大風の影響を受けたが、開花のタイミングとずれてまあまあ数の房が成長した。整形をして袋がけした房が二株の木に二十個ぐらいあるだろうか。

一年生植物の野菜は懸命に一生を全うしようとする。少しぐらいの天候不良ならたいいてい実を結ぶ。今年はスイカが手柄をあげた。二株で七玉収穫できた。売り物をつくる人は一株に二玉しか実らせないそうだが、わが園丁には数が多いほどうれしい。どれも赤く熟れておいしく、三、四個はずいぶん大きくなった。メロンは、花をつける茎の成長が遅れ、八月に入るとほどなく雨が降り出したので、成熟がいつそう遅れた。二株で実の数は四個。苗にメロンと書いてあったので買ったのだが、黄金色に輝き大ぶりだった果肉は硬めで甘みが少なかつた。十月、やせたピーナツが少々。

今年も八月中旬から雨が多く気温も低めの日が長かった。イチジクの秋の実が豊作でかなり大きくなったと思ったところ、なにがいけなかったのか、片方の木の葉がしおれて大部分落ちてしまった。それで、実の数が多すぎるだろうと考えて、葉のついている枝の実だけ残して摘果した。実が熟し始めても雨が長く降るうちに、一株とも実にカビが生えだし、割ってみると中までだめになっている。大半の実が功を遂げずじまい。ところが雨の日のあいまには日の照ることもあるので、葉を減らした木はまた葉を再生し、遅れて熟した実がわずかに生き残るというちぐはぐ。気の短い園丁はこういうことでもしくじる。クリは、去年よりも少なかった雨にかなり耐えて、例年よりも遅く大きい実も拾えた。

秋が深まると天気の良い日もあって、ほかの果樹の実はもちこたえて、けっこうおいしく熟した。ブドウはみな色づいて、初めて十分に食べることができた。大きい木のリングゴも十月後半まで待つてみたら、甘みがつくことが分かった。もちろん、少数でも孫に分けるのである。たった一個のナシもおいしかった。渋柿は雨がたたつて二個だけになったがとても大きく、甘柿も十個余り大きな実に成熟した。締めくくりのミカンも数が少ない分大きく甘かった。ハッサクは正月まで待つてみよう。

白桃を二個収穫できたことを特記しておく。子供のころ両親が山際の畑に桃を植えていたが、ちゃんとしたのを食べた記憶がないので、桃を育てるのはむずかしいと考えて初めは植えていなかった。それでもあとになって植えて、三年目の今年収穫できたのは喜びだった。しかし桃の木はやはり弱く、シンクイムシにやられて幹の上の方が枯れてしまった。傷ついた若い木に過大な負担をかけるのは気のどくだから、十一月、インターネットの店で大きめの苗木を二株買って植え替えた。今度は大切に世話するつもりである。

注意も足りずにそういうことをしているうちに、大部分の木の元気がなく、幹や枝の色が悪くカビが生えたようになってきていることやつと気づいた。秋の中ごろからこんどは気温があまり下がらず、しばしば雨が降って、十二月に入るまで温かめの日が続いたことが病気を発生させたらしい。レモンは、よく見れば葉に黒点がちらばり、枯れたような小枝が何本もある。今年も葉を落とし始めた。柿や李などもみな重病なのかもしれない。遅ればせながら殺菌剤を散布した。心配性の園丁は、五年間せつせと世話をした果樹たちが再起できるか気をもんでいる。

ともあれ、今年期待に伝えてくれたブドウの木はまだ元気そうなので、片方の木だけだが、ちゃんとしたパイプを買ってきてしっかりした柵に作りなおした。心配を抱えた園丁

を励ますために、枇杷が、たくさんの小さな実をつけて豊作を約束している。
果樹たちの幸運を願いながら、新しい年を迎え、「幸福を慮り、庭に出て働こう」。

二〇一五年冬至

備忘

果菜園「荒地」には、ほかの園丁の経験しない苦労がある。それを記しておく。ここの半分は、煮干し作業場を壊して更地にし、ホームセンターで買った一年生の苗木を植えて果樹園にしたのである。解体作業で出たスレートの破片がたくさん埋まっていた。今年になって、果樹が実るようになれば孫たちに食べてもらおうと考えていると急に、以前のスレートはアスベストを含んでいたということが気になりだした。調べてみると、業者はスレートを砕かないようにしなければいけないのだ。水に含まれるアスベストに対し、WHOは警告をしていないらしいが、孫に食べさせるとなれば、微量でも果実に含まれるのは気になる。できる限り除去することを思い立った。小さいながら果樹はすでに根付いているし、まわりを掘りかえず仕事を業者に頼むのは費用がかかりすぎ

る。手作業で破片を掘り取ることにした。海岸道路で埋められる前にはこの集落の海岸でアサリ貝が獲れていたのだが、その要領でやるのである。三月以来、時間のとれる日の三時間余り、地を這う作業が始まった。暑くなる六月までにおよそ三十日、涼しくなった十月に十日足らず。車の入る通路にしている部分はあきらめて、果樹のまわり半径約二メートルの地面の土壤改良である。十月中に初期の目的を達成し、大事業を終えた。まだ破片の十パーセント程度残っているようだが、疫学的に危険があるとしても、その危険率を一ケタ落とすことができただろう。もともと、もともと小石だらけの土壤にまだコンクリート片など瓦礫が残っている。だからここはあいかわらず「荒地」の名がふさわしく、自慢のできない苦勞があるのです。